

助教
山田 恵

■ 学歴

1. 2022年 北九州市立大学大学院 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学
3. 思春期学

■ 研究キーワード

1. アタッチメント
2. 寄り添う支援
3. 女性の健康

■ 研究課題

1. アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。
2. 思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

■ 担当授業科目

1. 人間関係とコミュニケーション（前期） 選択
2. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 必修
3. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期） 必修
4. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期） 必修
5. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期） 必修
6. 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年） 必修
7. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） 必修
8. 母子の心理・社会学（前期） 必修
9. ウイメンズヘルスケア（前期） 必修
10. 助産学基礎実習（前期） 必修
11. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年） 必修
12. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期） 必修
13. 母性看護学演習（前期） 必修

14. ウイメンズヘルス (前期) 選択
15. 母性看護学実習 (後期) 必修

授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【人間関係とコミュニケーション】 助産ケアを行う上で土台となる対人関係構築に関する技法について、共同学習を取り入れ実施した。
2.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)、Ⅱ(分娩期)、Ⅲ(産褥期)、Ⅳ(新生児期)、Ⅶ(助産過程)】 Ⅰ～Ⅳの科目間での学習過程をふまえ、助産過程の展開では知識を活用したアセスメント・診断の技法などを解説した。グループ活動であったが、学修状況により適宜個別対応をした。
3.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)】 思春期健康教育実施については準備期間が短期間であることを考慮し、事前アンケートを行い、学生が企画運営に活かせるよう情報提供した。
4.	授業科目名【母子の心理社会学】 社会学的視点で助産ケアにどのように知識を活かしていくのか、最近の動向や課題について具体的に事例を用いて解説した。
5.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 学習範囲が広範囲であるため、関連授業とつなげる形で授業資料を作成した。
6.	授業科目名【助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ】 施設間で実習受け入れ条件が様々であったが、施設間で差が生じないよう目標到達に向けてその都度指導者と調整を行った。また、県外実習の学生の体調不良時にも速やかに対応し、実習継続できるよう調整した。
7.	授業科目名【母性看護学演習】 授業内で質問を受け付け対応していく時間を設け、個別指導した。
8.	授業科目名【ウイメンズヘルス】 グループディスカッションをする時間を設け、普段意識していない事柄(ジェンダーバイアス)を考える機会とした。全体発表することで互いの気づきを共有し、自己の認識を見直す機会とした。
9.	授業科目名【母性看護学実習】 臨地実習が半日と短時間であったが、計画に沿って実践できるよう指導者と時間調整し、実践の機会を設けた。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等(任期)
1.	1991年4月～現在	日本助産学会	会員
2.	1991年4月～現在	日本母性衛生学会	会員
3.	2002年11月～現在	日本不妊カウンセリング学会	会員
4.	2005年1月～現在	日本思春期学会	会員
5.	2023年8月～現在	日本学校保健学会	会員

6.	2014年4月～現在	全国助産師教育協議会	会員
----	------------	------------	----

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	(報告書) 2023.4	本学学生を 対象にした 「健康管理 カルテ」の作 成	共	2022 年度西南 女学院大学保健 福祉学部附属保 健福祉学研究所 2022 報告書	① 本学学生の健康維持・増進に向け た学生支援の取り組みとして「健康管 理カルテ」を作成し、2021 年度保健福 祉学部入学生および 2022 年度大学部・ 短期大学部入学生へ配布した。また、 本年度の使用状況について調査した。 その結果、本学学生は健康管理カルテ を体調不良時や実習前に活用している ことが明らかとなった。また、学生に とってより利用しやすくなるよう今後 の健康管理カルテの運用方法について 考察した。 ② 共著者名：水貝洵子、山田恵、樋 口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内 田知英 ③ 西南女学院大学保健福祉学部附属 保健福祉学研究所 2022 報告書 (P10～13)
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023.11	A 女子大学 における	共	一般社団法人	① 本学 1、2 年生を対象に配布した 「健康管理カルテ」の利用状況を調査

		「健康管理カルテ」の作成と配付 ー学生の自己管理能力向上をめざしてー		日本学校保健学会 第69回学術大会 (於 聖心女子大学)	した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと。また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。 ② 共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③ 一般社団法人日本学校保健学会 第69回学術大会講演集(P130)
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～2024年3月	助産別科アドバイザー（3名）	
2.	2023年4月～2024年3月	クラス担任	
3.	2023年4月～2024年3月	オープンキャンパス企画・運営	補佐
4.	2023年4月～2024年3月	助産別科ブログ担当	
5.	2023年4月～2024年3月	実習コーディネーター	補佐
6.	2021年～現在	健康管理カルテ作成・配布	